

深セン自動運転タクシー試乗体験

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

今春、米国の自動運転企業Waymo（ウェイモ）がトヨタ自動車と提携を発表し、都内中心部で有人での実験走行によるデータ収集を開始しました。特定条件下で運転手なしで運転できるレベル4 技術を利用した無人運転車両は、すでに米国や中国で実用化されています。

今回は、香港のすぐ隣にある深センで実際に自動運転車両を体験した様子をお伝えします。

深センでは、ハイテク企業の多い南山区を中心に、Poni.ai（ポニーAI）という企業が自動運転サービスを提供しています。

配車は専用のスマホアプリで簡単に操作できます。海外でUberやGrabを利用したことのある方なら、違和感なく使えるでしょう。

乗降場所を地図で指定すると、すぐに対象車両がマッチングされました。車両ナンバーや到着時間、ルート、信号待ちの状況まで、アプリに細かく表示されます。



Poni.aiのアプリ「Pony Pilot」の配車画面

到着した車両は、レクサスRX450 h。アプリで本人確認の通知ボタンを押すと、車両の鍵が解除され、乗り込むことができます。

車内は後部座席に3人まで乗車可能。前方座席とはアクリル板で仕切られ、助手席にはマスコットのぬいぐるみが置かれていました。

※写真は筆者撮影

深セン自動運転タクシー試乗体験

大分銀行 香港駐在員事務所 所長
江口 博史



車内の様子

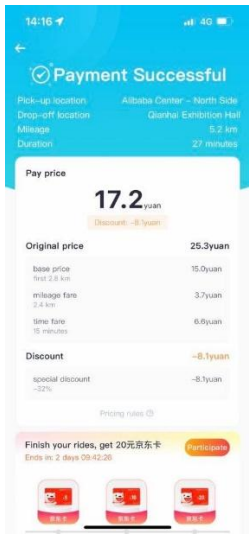
シートベルトを締めると、ハンドルが自動で動き出し、ゆっくりと発車。フロントガラスには8台のカメラが設置され、後部座席の2つのモニターには、周囲の状況が表示されます。

車外に設置されたカメラとセンサーで360度を監視し、A I が周囲を正確に把握、急な飛び出しにも対応できます。

最初は緊張しましたが、すぐにその運転技術に驚かされました。加減速もスムーズで、車線変更も自然です。深センの運転は日本より荒い印象ですが、割り込んでくるバイクや路上駐車、工事中の道路を巧みに避ける様子には、感心させられました。

目的地到着後は、事前登録した電子マネー（アリペイ）で決済完了。降車時にはモニターで後方の安全確認ができるようになっています。

今回の移動距離は約5km。渋滞もあり、30分程度かかりましたが、最高時速は55km、料金は約350円でした。プロモーション割引もあり、同クラスの一般タクシーより2割ほど安い価格設定でした。



アプリの決済画面

※写真は筆者撮影

深セン自動運転タクシー試乗体験

大分銀行 香港駐在員事務所 所長
江口 博史

この体験を通じ、技術的には自動運転が確立されていると実感しました。

そう遠くない未来に「車は昔、人が運転していたの？」という会話が聞こえる時代が来るかもしれません。

※写真は筆者撮影